

事例 13

交流・居場所

～地域の課題をアートの力で魅力に変える～

【青葉区 みらいづくり大学事例】「地域交流イベント 光る池」(平成 30 年 12 月～)

団体紹介

- ・運営主体：実行委員会（「あおばみらいづくり大学」卒業生）、
上谷本連合町内会
- ・活動者の受講年度：平成 30 年度（第 4 期生）
- ・メンバー数：4 人（卒業生） スタッフ約 100 人
- ・活動実績：平成 30 年度 来場者約 1,500 人
令和元年度 来場者約 350 人※雨天のため規模縮小
令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止
- ・活用制度：青葉みらいおこし補助金（現 あおば地域サポート補助金）



活動内容

青葉区の地域づくり大学「みらいづくり大学」では、各年度テーマを設け、青葉区の魅力発見や発信、魅力づくりなどを行っています。平成 30 年度は、横浜美術大学の学生と一緒に、地域の課題をアートの力で魅力に変えることを目的に、受講生自らが企画・イベントを実施しました。

田んぼ de アートや車体を花壇とみたくてアートスポットを作り出すなど 5 つの企画を実施し、地域のつながりを生むきっかけとなりました。

5 つの企画のうちの一つが、地域交流イベント「光る池」です。地域のつながりが希薄化する中、多世代が交流し顔の見える関係づくりを目指し、もえぎ野公園の池に、およそ 100 個の青いライトを浮かべ、ライトアップするとともに、来場者が夢や願い事をカードに書いて池周辺の木々につるすイベントを企画しました。イベントは大好評で、「来年もまたやってほしい」という声が寄せられたそうです。

そこで、単発で終わらせず、「町内会の活動として、今後も続けていこう」と決まり、令和元年度からは「みらいづくり大学」の卒業生が実行委員長となり、地元連合町内会主催で継続して実施しています。

（令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。）